

広告特集 観光立国を目指して



拡大するインバウンド需要 観光人材の育成・強化が急務

政府が掲げる成長戦略の柱の一つが、インバウンド需要の取り込みだ。人口減少社会となり、国内市場が縮小する中、急速な成長を遂げるアジアをはじめとする国際観光需要を取り込むことにより、地域経済を活性化させ、日本の力強い経済を取り戻すことが狙いだ。その実現のカギとなるのが、観光人材の育成・強化だ。

伸びる訪日外国人旅行者 課題は需要喚起するビジネス創出

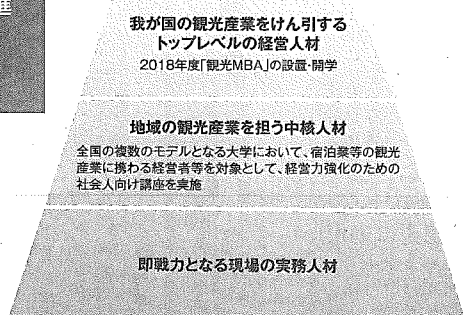
2016年、訪日外国人旅行者は2404万人に達し、その旅行消費額は3兆7476億円と過去最高を記録した。10年前と比べて、訪日外国人旅行者数は約3倍の成長を示したことになる。しかも、旅行・観光消費は観光業以外にも大きな経済波及効果がある。地域経済を活性化させ、産業界全体を潤すカギとしてもよい。

20年に向けて、さらなる伸びが期待され、目標の4000万人到達も視野に入ってきている。宿泊施設の建設などにも拍車がかかるが、課題は観光先進国として、今後この高い水準を維持できるかどうかだ。

すでに外国人観光客の需要は体験型の「コト消費」に変わっており、訪日外国人旅行者は、一度日本を訪れて日本を好きになり、繰り返し訪れるリピーターを創出することが欠かせない。訪日外国人にどのような体験をしろという、どのように消費拡大に結びつける一層重要な課題がある。この戦略的な取り組みによって、日本の観光産業の国際競争力を高めるべく、必要があるというわけだ。

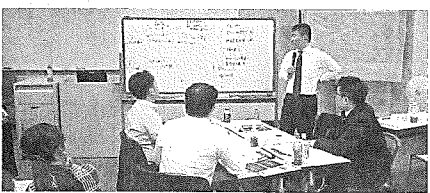
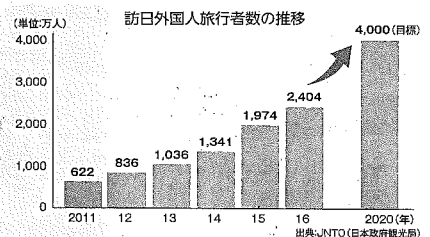
しかし、そのような構想を描く経営人材が不足しているのが現状となっており、地方においても、地域の再生・活性化に取り組み、地域の観光産業の収益力強化・経営の高次元化等を担う中核人材が求められている。産業界全体が質・量ともに人材不足に苦しみ、今後の有望産業の人材を育成・強化していくことが急務といえる。

観光産業を担う人材の育成・強化 —産業界のニーズを踏まえた人材育成施策の実施—



産学連携のもと 観光人材育成の取り組みを推進

そこで観光庁は、2015年度より「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」を開始した。すでに観光経営人材育成を目的として、京都大学・一橋大学が観光MBAの開設を発表しているが、これと別に、複数の



昨年の「旅館・ホテルの経営人材育成講座」の様子(小樽商科大学)

観光庁が行う観光人材の育成事業実施校

我が国の観光産業をけん引する
トップレベルの経営人材の育成

大分大学 (大分県大分市)
外国人観光客への接遇、顧客および従業員満足度の向上、サービス生産性の改善等の課題に対応できる人材を育成。
<http://www.ec.ota-u.ac.jp>

鹿児島大学 (鹿児島県鹿児島市)
世界遺産・屋久島で培われたエコツアーズの実践体系「エコツアーズDMO」の形成のための中核人材を養成する。
<https://www.kagoshima-u.ac.jp>

東洋大学 (東京都文京区)
宿泊、ブライダル等のホスピタリティ産業と、観光産業における女性活躍、新しい組織づくりを考察する。
<http://www.toyo.ac.jp>

明海大学 (千葉県浦安市)
日本の観光立国実現のため、地域の観光産業の強化を担う宿泊施設のミドルマネジメント層を育成する。
<http://www.melkai.ac.jp>

和歌山大学 (和歌山県和歌山市)
個々の観光企業にとどまらず、 Destinationの地域全体の発展に寄与できる中核的人材を養成する。
<http://www.wakayama-u.ac.jp>

我が国の観光産業をけん引する
トップレベルの経営人材
2018年度「観光MBA」の設置・開学

地域の観光産業を担う中核人材
全国の複数のモデルとなる大学において、宿泊業等の観光産業に携わる経営者等を対象として、経営力強化のための
社会人向け講座を実施

即戦力となる現場の実務人材

我が国の観光産業をけん引する
トップレベルの経営人材
2018年度「観光MBA」の設置・開学

地域の観光産業を担う中核人材
全国の複数のモデルとなる大学において、宿泊業等の観光産業に携わる経営者等を対象として、経営力強化のための
社会人向け講座を実施

即戦力となる現場の実務人材

小樽の人口減 対策は

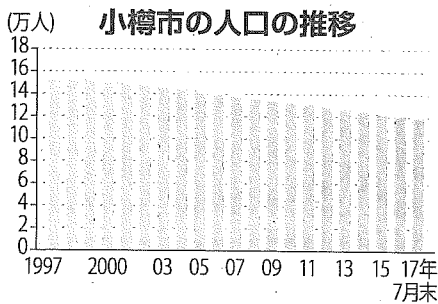
市と商大初の共同研究

小樽市は、人口減少対策をテーマに小樽商大と共同研究を行う。市が商大と共同研究を行うのは初めてで、本年度中に結果をまとめ、歯止めが掛からない小樽の人口減少への新たな対策を探り、今後の施策立案に生かす。市は開会中の定例市議会に、調査費320万円を盛り込んだ一般会計補正予算案を提案している。

(西出真一朗)

調査は小樽商工会議所や小樽観光協会、北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部などの市内の各団体から聞き取り調査を行い、人口減の現状や小樽の将来像などを把握。市民を対象に意識調査やアンケートも行う。

また、市外から小樽への印象を探るため、行政サービスや住環境など、市外の



今後の施策立案に生かす

人が小樽に何を求めているかもアンケートなどで調べる。市外へ転出する市民への調査も行いたい考えだ。小樽市の人口は7月末現在、11万9611人。ピークの1964年は20万7093人だったが、以後減少を続け、近年では毎年約2千人ずつ人口が減っている。学術的な見地からの分析を加えることで、これまでに市が気付かなかった人口減少の要因や対策を見つけ、今後の第7次市総合計画の策定や施策に生かす。市企画政策室は「子育て支援や企業誘致などの施策で人口減少対策を行ってきたが、依然人口減少に歯止めが掛かっていない。新たな対策が出てくれば」と期待している。

9/15~24“秋のみやこ市” 都通り商店街で多彩な企画 (2017/09/06)

[Tweet](#)

小樽都通り商店街振興組合(小林満理事長)は、多くの芸術家を輩出してきた小樽にちなみ、恒例の秋のみやこ市にあわせ、第11回アートストリートin 都通り(鈴木創事業委員長)を、9月15日(金)から24日(日)までの10日間開催する。

ここ4年ほどは、同商店街をバルーンで装飾してきたが、11回目となった今回は原点に還り、芸術に親しむ見所満載の市民参加型の新企画を用意した。



写真愛好家が集まる小樽写真研究会の協力で、旧石川屋店内に「あなたがはじめて見る都通り」と題し、同会メンバーがこれまで撮影した都通りの写真を展示。

16日(土)11:00~12:00に、市民参加の都通り撮影会を実施。その作品を加エプリントして展示する。

9月10日開催のおたる町並みスケッチ大会参加者も加わり、ウォールアーティストのロコサトシさんの協力で製作した12m巨大アートを、手芸のぎんざ隣空店舗に展示する。

17日(日)14:00から旧石川屋前で、小樽書道研究臥牛社主宰・池田憲亮氏による、書道パフォーマンスを開く。

アーケード内には、小樽在住のアーティスト、江川光博・佐藤正行・松田研氏の現代アート作品展や恒例の絵手紙・パステルアート展、笹原薫氏の小樽の街のスケッチ画を展示。親子向けの講座を企画する団体O-garu主催のワークショップ、子ども達の目線で撮影した写真を使って商店街のマップを作成し展示するなど、新しい企画が盛り沢山。

小樽商科大学小樽笑店のメンバーも参加して、16日(土)・17日(日)に来場者と一緒に2m×2mのバルーンモザイクを製作し、完成後は同商店街に展示。

23日(土)・24日(日)はバルーンアートを配布。ストラックアウトのブースを無料で出店する。同写真部新人展やスマホで撮影した都通りの写真をその場でプリントし、展示にも協力する。

実りの秋にあわせ、人気の恒例イベント・じゃがいもバケツ1杯100円即売会は13:00から、15日(金)は真狩産、20日(水)は赤井川産を用意。毎週土曜日開催の無農薬野菜市は11:00から。

ガラポン抽選会は、3千円以上の買物で1回抽選でき、特賞に千円札つかみ取りを用意。その他10円玉つかみ取りやゆめびりかや商品券が当たる。

和太鼓おたる打々っ鼓・ジャグリングKuro氏・キリガミスト千陽氏によるパフォーマンスが行われ、ぎんざ前では手作りワークショップも。



樽商大YOSAKOI「翔楽舞」

あす小樽で10周年記念演舞

設立10周年を迎えた小樽商大のYOSAKOIソーランチーム「翔楽舞」は9日、小樽市民センター・マリノホール（色内2）で演舞披露会を開く。チームは2007年7月に設立。今年には10周年を記念し、過去10年間に「YOSAKOIソーラン祭り」で披露した演舞を組み合わせた「特別メドレー」を披露する。1〜4年生の約100人のメンバーが10種類の衣装で踊る。

チーム代表で22年の伊東和真さん（20）は「お世話になっっている小樽市民の方々に感謝を込めて踊ります。私たちの元気を伝えたいです」と意気込む。午後2時〜同3時15分。入場無料。事前の申し込みは不要。問い合わせは伊東代表 ☎080・5584・2220 2へ。

（有田麻子）